

Crown English Communication II, p. 5.

Lesson 1

A Boy and His Windmill

Village life in Africa can be very hard. There is often no electricity or running water. There are not enough schools. One 14-year-old boy decided he was going to change things. And he was going to do it all by ⁽¹⁾himself.

—1

William Kamkwamba grew up in a village of 60 families in Malawi. When he was 13, there was a terrible drought. He ⁽²⁾remembers his family's eating only one meal a day. He had to drop out of school because his family could not pay the tuition.

William spent his days in the village library. He could hardly read English, but he studied pictures in the books. He saw a photo of a windmill making electricity and thought, "If they can make electricity ⁽³⁾out of wind, I can try too."

It is ⁽⁴⁾hard to believe that a boy from such a poor village ⁽⁵⁾developed an interest in technology. But that is just what William did. In 2002, when he was 14, he built a windmill out of broken parts from bicycles and cars and wood from the village trees. The whole thing looked like junk.

Lesson 1—Lead

(1) oneself π (all) by oneself, p. 1346.

(all) **by oneself*** (1) (ほかの援助なしに) 独力で、ひとりで (by は省略可能; ↑2) ▶I can't move this table **all by myself**. 私一人の力ではこのテーブルを動かせません。(2) 一人きり[ぼっち]で (→alone 副 類義) ▶I love to travel **by myself**. 私は一人旅が好きです。(3) [(all) by itself] ひとりで、自動で ▶The door opened **by itself**. ドアが自動で開いた。

- 辞書ではしばしば()が省略可能な要素を意味する記号になることに触れ、教科書本文でも使われている all が省略され by oneself になることもあると確認させる。
- (1)の訳語の前には()で詳しい意味の説明が示されているのでチェックさせる。用例や教科書本文を見て「(ほかの援助なしに)独力で」の意味であることを確かめさせる。
- 同ページにある成句 for oneself を参照させる。()で示された説明を確認させて、同じ訳語であっても by を使うと「(ほかの援助なしに)独力で」、for を使うと「(自分のために)独力で」という違いがあることを調べさせる。()の説明を読むことで、よく似た表現の違いがわかることを理解させる。

for oneself* (1) (自分のために) 独力で、自分で ▶Go and see **for yourself**. 自分で行って見てごらん。(2) 自分(自身)のために ▶Keep half of the money **for yourself**. そのお金を半分は自分のために取っておきなさい。

Lesson 1—Section 1

(2) remember π 1b, p. 1586.

b [remember (A [A's]) doing] (A (人) が) …したことを覚えている (↓3 語法) ▶I remember being impressed with his work. 彼の仕事ぶりに感銘を受けたのを覚えています/I remember my father [(かた) father's] saying once, "Never give up." 私は父がかつて「絶対あきらめるな」と言ってくれたのを覚えている/I remember him [(かた) his] going fishing with Bob. 彼はボブと釣りに行ったと僕は記憶している/I remember seeing you several times. 何度

- 教科書本文で所有格(his family's)に-ing 形が続いていることに注目させ、{remember (A [A's]) doing} という文型表示のある π1b に導く。角かっこ[]は言い換え可能であることを示しているの、目的格 his family でも所有格 his family's でもよいことを確認させる。
- 「…したことを覚えている」という訳語をチェックし、教科書本文では「彼の家族が一日に一食しか食べなかったことを覚えている」という意味になることを確認させる。
- 辞書の第2用例や第3用例では、所有格の方に二重丸かっこ{}を使った{かた}という記述があることに注目させ、目的格よ

り格式ばった表現であることに触れるのもよい。

(3) out of A, p. 1367.

out of A* (1) [[運動・位置] Aの中から外へ (→into) ▶get out of bed and go to the bathroom ベッドから出てトイレへ行く (by 付) ベッドを特定する必要がある場合を除いて、bed の前の the や one's は通例省略される) /He jumped out of [from] the car. 彼は車から飛び降りた/飛び出した (from は「起点」を強調し、しばしば終点の存在を含意するのに対し、out of は「内から外へ」の動作を強調する; →from 1 類義、成句) GET out 類義: jump from the rock 岩から飛び降りる) /take something out of one's pocket ポケットから何かを取り出す / walk out of [through] the door into the corridor ドアを出て廊下へと歩いて行く /out of here ↓成句。(2) [[離脱] Aから離れて、Aを脱して; A(日光・雨など)を避けて ▶Things are getting out of control. 手に負えない状況になってきた/I tried to talk her out of suing you, but couldn't. 彼女に君を訴えるのを思いとどまるよう説得しようとしたがだめだった (→into 副 4b) /out of danger 危機を脱して /Let's find a place out of the rain. 雨宿りできる場所を見つけよう。(3) [[不在] Aにいない、Aを出ていて (→in) ▶I'll be out of my office tomorrow. 明日は社におりません /Billy is out of town (until Tuesday [on business]). (火曜日まで[出張で]) ビリーは町を出ています (町を特定する場合を除いて、town の前の the, one's, this などは通例省略される)。(4) [[欠乏] (使い果たして・残り切った) Aがなくなつて、Aを切らして ▶We're nearly out of time [toilet paper]. 時間[トイレの紙]がなくなりかけている /out of breath 息が切れて /out of work [a job] 失業して /I'm completely out of touch with the world. 私は世間の事情に全く疎い。(5) [[範囲] Aの外に[へ]; Aの範囲外に (→in, within) ▶out of reach [sight] 手の届かない[見えない]所に (このような慣用的表現ではAはしばしば無冠詞) /The hat is out of fashion. その帽子は時代遅れだ。(6) [[出所・入手先] Aから; (動物が) Aを母にして; (競走馬が) Aを母馬として ▶take a bite out of it それを一口かじる /That's what I wrote the novel out of. それを題材にその小説を書いたんだ。(7) [[突出] Aから突き出して、張り出して、広がって ▶lean [stick one's head] out of the window 窓から身を出し出す[頭を出す]。(8) [[位置] Aから離れて ▶the airport 12 miles out of town 町から12マイルのところにある空港。(9) [[退出] A(学校・大学・病院など)から出て ▶drop out of school 学校を途中でやめる、退学する /They married right out of college. 彼らは大学を出てすぐに結婚した /He isn't out of (the) hospital yet. 彼はまだ退院していない。(10) [[奪取] Aを奪って ▶He'd been cheated out of his savings. 彼は貯金を巻き上げられてしまった。(11) [[無関係] A(事・組織など)にも関わらず ▶"Do you miss the world of advertising?" "Not for one second. I'm very happy to be out of it." 「広告業界が恋しいかい」「全然、足を洗ってせいせいしているよ」。(12) [[失権] (政治家・政党などが) A(役職・権力)を失って (→in) ▶be forced out of office 辞任に追い込まれる /be voted out of power 投票で政権を追われる。(13) [[動機・理由] Aから、Aで ▶I did it out of curiosity [interest, pity]. 僕がそうしたのは好奇心から[興味本位で、同情心から]だった。(14) [[原材料] Aを原材料にして (from よりくだけた言い方) ▶a knife made out of plastic プラスチック製のナイフ。(15) [[選択・比率] [... out of A] Aの中から…を選択して; (割合の高さを述べて) Aのうち…が (→in 副 7) ▶Which book is your favourite out of all those you've written? あなたの書いたすべての本の中でどれがお気に入りですか /Four out of five people think passive smoking is harmful. 5人に4人は受動喫煙が有害だと思っている。(16) [[スポーツ] (選手が) A(チーム)からはずされて、(チームが) A(競技会など)で敗退して。

- 多くの意味がある成句なので、しっかりと調べさせたい。まずはこの out of A はIの中でも成句義が大変に多様であることをチェックさせて、簡単な語の組み合わせに多

くの意味があることに注意させる。

- 成句義番号に続いて『 』に大まかな意味・用法が示されていることを確認させる。教科書本文では「風(を原材料にして、そこ)から電気を作る」話をしている部分なので、『原材料』と記された(14)に導く。さらに(!from よりくだけた言い方)と記されているのでチェックさせるのもよい。
- 同様に教科書本文 18-21 行目にある... out of broken parts from bicycles and cars and wood from the village trees の out of も『原材料』の意味になることを確認させる。
- さらに教科書本文 8-9 行目の drop out of school の out of が(9)の『退出』の用法であることに触れるのもよい。辞書の第 1 用例は教科書本文と同じなので、意味も確認させる。

(4) hard α 2b, p. 881.

b [it is hard (for A) to do] (A<人>にとって[Aが])...するのは難しい (1) (1) × it is hard that ... の構文では用いない。(2) 負担を強調するときは for の代わりに on が用いられることがある; → easy 1 b, for 5, it 4 a) ▶ It's hard to believe we met for the first time yesterday. 我々がきのう初めて会ったばかりだなんて信じがたい/"Will the bank give you a loan?" "It's hard to say [tell]." 「銀行はお金を貸してくれるの」「何とも言えない」/It is hard to get this kind of job now. 今この種の職を得るのは困難だ(≡ This kind of job is hard to get now.; → easy 1 a 語法 (1))/I find it hard to be [being] away from family. 家族と別れて暮らすのは難しいと思う (1 to do の代わりに doing を従えるのはきわめて『まれ』); → easy 1 b 語法 (2))/It's hard for me to imagine life without the Internet. インターネットがない生活なんて想像しがたい (1) (1) × I am hard to imagine ... としない。(2) 〇-△ しはしば I can't do の控えめ表現として用いられるため、for の後は me が 25% を占める。

- 教科書本文で It is hard to believe と It で始まり、hard に to 不定詞が続いていることに注目させ、{it is hard (for A) to do} という文型表示のある 2b に導く。() は省略可能な要素であることを示しているので、教科書本文にはないことを確認させる。

- (1) × it is hard that ... の構文では用いない」という部分から、hard に続く要素として to 不定詞の代わりに that 節は使えないことが × で示されているのを確認させる。
- 教科書本文と同じ hard to believe ... を使った辞書の第 1 用例に注目させる。辞書にはよく使われる表現が用例として出ていること、中でも太字になっているものは、ひとまとまりで覚えた方がよい重要表現であることに触れ、It is hard to believe という語のかたまり(チャンク)をしっかりと記憶させる。また教科書本文では接続詞 that があるが、辞書の第 1 用例のように省略可能であることも気付かせるとよい。

(5) develop ㏄ 3, p. 516.

3 <性質・嗜好・感情・評判など>を持つようになる; <病気など>になる, かかる; <機械などが>不具合などを示す, 起こす ▶ develop a taste for wine ワインが好きになる/develop cancer 癌(がん)になる/develop the habit of working hard 一生懸命働く習慣を身につける。

- develop は後ろに従える目的語の名詞によっていくつかの語義に分かれている。各語義で、訳語の前後に山形かっこ 〈 〉 に示されているのが、一緒に用いられることの多い目的語に関する情報(選択制限)であることに触れ、教科書本文の interest (興味) を目的語に取るような語義を調べさせる。「興味を持つ[抱く]ようになる」という本文の解釈と合うことから語義 3 へと導く。develop はいつも「発達[発展]する」ではなく、文脈に合った意味を探す習慣をつけさせたい。
- 同じ語義番号のセミコロン(;)の後ろにある「<病気など>になる, かかる」の語義もしはしば使用されるので、触れておくとよい。どちらも何かを「持つようになる」ことだが、興味であれば「抱くようになる」、病気なら「なる, かかる」が自然な訳語であることに注意させる。

Crown English Communication II, p. 6.

—2

Neighbors laughed at William. Even his mother thought he might be crazy.

“We thought he was doing something useless,” she said.

But William ⁽¹⁾kept on building. Finally, the windmill was ready for its first test. People gathered around. William climbed up the tower. Someone said, “Let’s see how crazy this boy really is.”

William took out a piece of wire that ⁽²⁾kept the wheel from spinning. The wheel and arms began to turn. He remembers: “I ⁽³⁾waited for a miracle to happen. Finally it came; at first a tiny light, then a bright glow.”

“The boy has done it,” someone shouted. No one was laughing any ⁽⁴⁾longer.

The windmill could light every room of William’s house. They no longer had to buy oil for the lanterns.

Lesson 1—Section 2

(1) keep ㊦ 2a, p. 1053.

2a [keep (on) doing] (やめないで) …し続ける; 繰り返し…する (㊦ on は、行為・出来事が通常ならやめたり終わったりしてしまうような状況で依然として継続することを強調する際に用いられる; ↓㊦ 2b; 語法) ▶ *Keep (on) going* until you get to the shrine. 神社に出るまでこのまま進みなさい/Everyone tried to stop her, but she *kept on running*. 誰もが彼女を止めようとしたが彼女は走り続けた/I *kept telling* myself that I was not to blame. 私が悪いわけじゃないとずっと自分に言い聞かせた/It's easy to die. It's the *keeping on living* that's hard. 死ぬのは簡単だ、難しいのは生き続けることだ (㊦ 状態動詞を続けることも可能)/That question is going to *keep on being* asked for centuries. その質問は数百年尋ね続けられることになりそうだ(㊦ 受け身を続けることも可能).

b [keep doing] 繰り返し…する, …してばかりいる, いつも…する (㊦ keep doing は行為がやめられない場合や、話し手のいらいだち・行為のしつこさを暗示する場合に多く用いられる; ↑㊦ 2a; ↓ 語法) ▶ It is difficult to *keep saying* no. 断ってばかりはいられない/That scene *keeps coming* back to me. あの光景が繰り返し思い出される/The baby *kept crying* and being sick. その子は泣きやまず吐き気もやまなかった (㊦ 状態動詞を続けることも可能)/You can't *keep doing* the same thing forever. いつまでも同じことばかりやっているわけにはいきませんよ/I *kept being* told about the story. その話を何回も聞かされた (㊦ 受け身を続けることも可能)/I *kept having* to buy new socks every month. 毎月新しい靴下を買い替えなければならなかった (㊦ I kept on having to ... は《まれ》).

- ・ {keep (on) doing} という文型表示から語義 2a に導く。意味を確認してから、(!on は、行為・出来事が通常ならやめたり終わったりしてしまうような状況で依然として継続することを強調する際に用いられる) という説明を示し、ウィリアムがあきらめずやり続けたことを理解させる。
- ・ さらに、! の説明には「↓ ㊦ 2b」とあるので該当部分を参照させると、2a は「あきらめず…し続ける」、2b は「…してばかりいる」という意味の違いがチェックできてよい。
- ・ 紙辞書なら(2)の keep A from doing も一緒に調べさせると、同じページに出ているので便利。

(2) keep ㊦ keep A from doing, p. 1053.

keep A from doing A (物・人・事) が…するのを防ぐ ▶ I tried to *keep* the ice-cream *from dripping*. 私はアイスクリームがしたり落ちないようにした。

類義 ㊦ ㊦ keep と prevent, stop, hinder
いずれも同様の構文で用いるが、keep はそのままにしておくで起こってしまう出来事を防ぐ場合に、prevent は《ややかく・主に書》である原因で実現しない出来事や、ある出来事が起こる可能性を考慮してそれを防ぐ場合に好まれる。stop はある出来事が起こる可能性を考慮してそれを積極的に防ぐ場合に、hinder は他の3語と違ってはるかに頻度は低く、物・事の進展・発展を鈍らせたり止めてしまう場合に好まれる。

- ・ 成句義や辞書の用例をチェックさせて、教科書本文の内容が「その車輪が回らないようにするワイヤー」となることを確かめさせる。
- ・ すぐ下にある㊦ コラムには keep と同様の構文で用いる別の動詞や、その意味合いの違いが書かれているので確認させる。
- ・ 紙辞書なら(1)の keep on doing も一緒に調べさせると、同じページに出ているので便利。

(3) wait ㊦ 2b, p. 2112.

b [wait for A to do] (人が **A** (人・物・事) が…するのを待つ, 待ち望む ▶wait for Ally to smile アリーがほほえむのを待ち望む (that 節を使って ×wait that Ally will smile としない)/wait for the water to boil お湯が沸くのを待つ.

- ・ {wait for A to do} という文型表示から語義 2b に導く。教科書本文では A が a miracle であり、「奇跡が起こるのを待つ」という意味になることを確認させる。
- ・ 辞書の第 1 用例は A が人, 第 2 用例は教科書本文と同様に物になっていることをチェックさせて, いずれの例も A が to 不定詞の意味上の主語となっていることを理解させる。

(4) long ㊦ any longer, p. 1138.

any longer [通例文尾・文中で] (1) [否定文で] これ[それ]以上(長く)(…ない); 今は[その時は, 今後は]もう(…ない), もはや(…ない) ▶I can't wait **any longer**. もう待てない (≡ I can [no longer wait [wait no longer]].) (2) [疑問文で] (まだ)これから先 ▶Why wait **any longer**? なぜこれ以上待つのか.

- ・ 教科書本文の主語が no で始まっていることから, (1)の[否定文で]という用法指示と一致していることをチェックさせ, 意味が「もはや誰も笑ってはいなかった」となることを確認させる。
- ・ 辞書で(1)の用例を教科書本文の類例として参照させる。例文訳の後ろに≡の記号を使った書き換え文が (≡I can [no longer wait [wait no longer].)と示されているのに注目させる。[] はそこからの部分が[] の表現と入れ替え可能であることを示しているの, I can no longer wait.とも I can wait no longer.とも言えることを確認させ, 否定+any longer が no longer を使っても表現できることを理解させる。
- ・ **I any longer** の 4 つ下には no longer の項目があるのでチェックさせる。教科書本文の同ページ 17 行目では主語の They に続いて no longer が使われているので, 「もはや彼らは…ない」という意味になることを確認させると理解が深まる。

no longer もはや…ない (↑ any longer (1)) ▶I am **no longer** interested in your opinion. 私はもはや君の意見には興味がない.

Crown English Communication II, p. 7.

“Our ⁽¹⁾lives are much happier now,” William’s mother said.

The ⁽²⁾news of William’s windmill spread ⁽³⁾beyond his village.

In 2006, Dr. Mchazime, who is a well-known Malawian educator, heard about the windmill and drove out to the Kamkwambas’ house with some reporters. He was so impressed that he decided to help William. Reports of William’s windmill appeared in ⁽⁴⁾local newspapers. Soon his fame spread beyond Malawi.

(1) life v 8a, p. 1111.

【生活】8 a (日常の)生活, 暮らし; 経験; 活動 (具体例では a ~/lives; その際しばしば修飾語を伴う) ▶The tax increase will affect our **daily lives** [×life]. 増税は私たちの日常生活に影響する/The Internet is part of **everyday life**. インターネットは日常生活の一部になっている/high [low] **life** 上流[下層]生活/live [have, lead] a **hard life** 苦しい生活を送る/start [make] a **new life** 新生活を始める/improve the quality of **life** 生活の質を高める (経済的な「生活水準」は the standard of living)/the **private life** of the rock singer そのロック歌手の私生活/have time for a **social life** 人と接する時間をもつ。

- 不可算用法が可算になる例として調べさせたい。教科書本文が文脈から「今の私たちの生活ははるかに幸福だ」という内容であり, ここでは「命」や「人生」ではなく「生活」の意味であることを確認した上で語義8aに導き, Yの表示をチェックさせる。
- 教科書本文では **lives** と複数形になっていることから (!具体例では a ~/lives) という説明に注意させる。「ウィリアムの風車のおかげで, 私たちのいろいろな生活の場面で今までよりずっと幸福だ」という現在の状況を具体的に語っているので, ここでは複数形になっていることを理解させる。

(2) news v 1, p. 1288.

news /nju:z/ (u-s は /z/)

【語源は「新しい (new) もの」】

— 図 1 (個人的に伝えられる) «…に関する/…という» **知らせ**, 情報; 便り, 近況, 消息 «of, about, on/that 節» (1つの知らせ) は a piece [bit] of ~ ▶That's great **news**! すごく知らせだね/Have you heard the **news**? I'm to marry Bill. もう聞いた? 私ビルと結婚することになったの/have the **news** of his transfer 彼が転勤したという知らせを聞く/Bad **news** travels fast [quickly]. (ことわざ) 悪い知らせは早く人に伝わる; 「悪事千里を走る」/be good **news** for [to] A (出来事などが) Aにとって耳よりな話である/Do you want the **good news** or the **bad news** first? (話) いい知らせと悪い知らせとどちらを先に聞きたい?/Well, I've got **news** for you. あの一, 実は君に言わなきゃならない知らせがあるんだ (have got の場合は通例良くない内容を伴う)/No **news** is good **news**. (ことわざ) 「便りのないのはよい便り」。

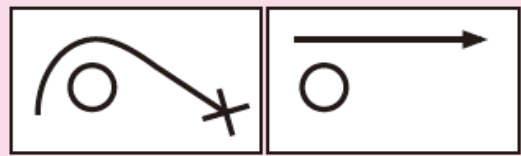
2 [しばしば the ~; 単数扱い] «…に関する/…という» (メディアが伝える) 報道情報, **ニュース**, 記事 «of, about, on/that 節» (特ダネは scoop で, ×scoop news としない); [the ~] (テレビ・ラジオの) ニュース番組 ▶the **international [national] news** 国際[全国]ニュース(記事)/sports [economic] **news** スポーツ[経済]ニュース/the **news** that the Premier was dead 首相が死亡したという報道/“The latest [breaking] **news** from Paris.” 「パリからの最新ニュース[特報]です」 (ニュース番組のアナウンスなどで)/carry the hard [headline] **news** 重大ニュースを報道する/be in the **news** ニュースになる/see [hear about] the accident on ABC **News** ABC のニュース番組で事故のことは見る[聞く]/watch [listen to] the ten o'clock [morning, evening, night(ly)] **news** 10時[朝, 夕方, 夜]のニュース(番組)を見る[聞く]/be front-page **news** (事件が)一面のトップ記事になる。

- 「ニュース」というカタカナから発音を類推すると間違いやすいので, 見出し語のすぐ横にある (!-s は/z/) という発音注記をチェックさせる。
- news** と-s が付いている形で見出し語になっており, X名詞複数形のように見えるが Y名詞であることに注意させる。
- 語義1と語義2を比較させた上で, 教科書本文では「ウィリアムの風車のニュース」は電気も通じていないような田舎町で広まったと考えられるので, 語義1がふさわしいことを確かめさせる。
- 教科書本文は過去形であり, 単数扱いか複数扱いかがわからないので, 辞書の第4用例に導き, 動詞に-s が付いて **travels** となっていることから, 単数扱いになることを確認させる。

(3) beyond ㄥ 1, p. 190.

beyond /brá(:)nd|jánd/ [by (…のそばに) yonder (向こうの)]

「(…の)向こう側に, …を越えて」(↓ 図 1, 図 2)の意が基本で, そこから, 時間・水準・領域 (↓ 図 2, 3, 4)などについて用いられるようになった。

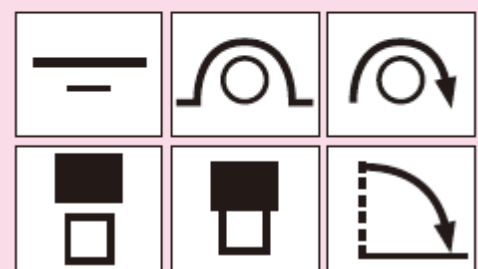


— 図 1 〔方向〕 …の向こう(側)に, …を越えて ▶ The village lies *beyond* the mountains. その村は山の向こうにある(≒『よりくだて』) ...lies on the other side of the mountains. ↓ 領域 / go *beyond* the borders of America and Canada アメリカとカナダの国境を越える/I looked *beyond* Joey at the window. 僕はジョーイ越しに窓を見た/study the universe *beyond* our solar system 太陽系のかたの宇宙を研究する/Just *beyond* the back yard was a quiet orange grove. 裏庭のすぐ向こうは静かなオレンジ畑になっていた (U 場所の副詞句の前置による倒置に注意; → do¹ 図 5 〔文法〕/I can't see *beyond* ten meters. 10メートルより先が見えない。

- 見出し語のすぐ下にある概念図のうち, 左の図に注目させ, 何かを越えてさらに広がっていくイメージを確かめさせる。
- 教科書本文が, 「風車」のことが *village* (村) という範囲を越えて遠くまで広がっていたという意味になることを確認させる。同ページ 29 行目 (spread *beyond* Malawi) も同様の例なのでチェックさせるとよい。
- over* の概念図 (p. 1372) の上段右の図と比較させると, *over* も「超えて」という運動方向を示すことができるが, *beyond* のように「超えてさらに広がる」というイメージは持たないという違いを把握させることができる。

o-ver /óuvar/ [原義は「(位置が)…の上に, …の上方に」]

「(…の)真上に広がって」(↓ 図 1, 図 2)の意が基本で, そこから「(接触を示して)(…の)一面を覆って」(↓ 図 2, 図 3), 「(運動方向を示して)(…を)越えて」(↓ 図 3, 図 1), 「(…で)傾けて」(↓ 図 5, 図 4), 「(量を)超過して」(↓ 図 6, 図 6), 「(時が)…にわたって」(↓ 図 8)の意味が生じた。



(4) local ㄥ 1, p. 1133.

lo-cal /lóuk(ə)l/ [語源は「場所」] ((名) locality)

— 図 (通例比較なし) 1 〔図の前で〕 地元の; その地方(特有)の; 当地の; 現地の, (ある特定の) 地域の (U 日本語の「ローカルな」の表す「田舎の」の意味はない; → rural, provincial) ▶ the [one's] *local* hospital その土地の[地元の]病院/*local* news 地域ニュース/the *local* community 地域社会/a *local* center ある地方の中心都市/a *local* dialect [accent] ある土地の方言/conform to *local* customs 土地の慣習に従う。

- (通例比較なし)という記述から比較変化をあまりしない形容詞であることをチェックさせる。
- 語義 1 の[vの前で]という用法指示から教科書本文(local newspapers)のように限定用法で使われる形容詞であることをチェックさせる。
- カタカナ語との違いを把握させるため, (! 日本語の「ローカルな」の表す「田舎の」の意味はない; → rural, provincial) という記述を確かめさせる。rural, provincial の項目を参照させると, それぞれの語に対する理解がより深まる。

ru-ral /rúar(ə)l/ [原義は「田園が広がる (open country)」; → rustic]

— 図 (比較なし) 〔通例 図の前で〕 1 田舎の, 田園の, 農村の; 田舎の人の (→ urban) ▶ in a *rural* area 田園地帯で/*rural* England イングランドの田園地帯。
2 田舎風[特有]の, 田舎っぽい ▶ a *rural* accent 田舎風の訛(なり)。
3 農業の (agricultural) ▶ a *rural* economy 農業経済。
◆ ~ *déan* 〔英国教〕地方監督 (数教区を受け持つ)。~ *delivery* 〔米〕郵便物の地方配達 (〔略〕 RD) (旧称 *rural* free delivery)。~ *route* 〔米〕地方集配区域 (〔略〕 RR)。
~ *ly* 〔略〕

pro-vin-cial /prəvínʃ(ə)l/ [→ province]

— 図 (more ~; most ~) 1 (比較なし) 〔図の前で〕 州の, 省の; 地方の ▶ a *provincial* capital 州都/a small *provincial* town 小さな田舎町。
2 〔けなして〕 (人・態度などが) 洗練されていない, 田舎くさい。
— 図 〔時になして〕 地方出身者; 田舎者。
~ *ly* 〔略〕 地方[州, 省]で; 田舎っぽく。

Crown English Communication II, p. 8.

—3

In 2007, William was invited to speak at an international conference in Tanzania. “I got information about a windmill, and I try and I made it,” he said in ⁽¹⁾halting English. The people there did not want him to go back to poverty. They asked William what they could do to help him. And he answered clearly, “I want to go back to school and I want to ⁽²⁾continue with my windmills so my family does not have to ⁽³⁾go hungry again.”

William’s fame spread beyond Africa. His story was told in one of America’s most famous ⁽⁴⁾newspapers and on American TV.

In 2009, William’s story appeared in a book published internationally.

In 2010, he won the GO

Lesson 1—Section 3

(1) halting α 1, p. 871.

halt-ing 図 1 《かたく》〈話し方・動作などが〉ちゅうちょした (hesitating), 口ごもった, たどたどしい, もたもたする; 〈韻が〉不調和な. 2 《まれ》足が不自由な (lame).
～・ly 図 つかえながら, たどたどしく.

- 教科書本文で halting が English を修飾していることを確かめさせる。一緒に用いられることの多い名詞に関する情報 (選択制限) は, 訳語の前後に 〈 〉 に入れて示されているので, 語義 1 にある 〈話し方・動作などが〉 の部分に注意させる。「ちゅうちょした, 口ごもった, たどたどしい」という訳語が, あまり話すことに慣れていないウィリアムの様子と合っていることを確認させる。
- 語義の前にある {かたく} という記述から, 形式張った表現であることに触れるのもよい。

(2) continue ωφ 2, p. 416.

2 〈人が〉《仕事・議論などを》(やめないで) 続ける; 《…を》(中断した後で) 続行する 《with》 ▶Are you going to continue with the project? あなたはその計画を続けるつもりですか/After taking a rest, we continued with our work. 一休みして私たちは仕事を続けた。
3 〈話・仕事などが〉(中断した後でさらに) 続く, 続けられる (resume) ▶The news continues after these commercial messages. コマーシャルの後にもニュースを続けます。
4 〈道が〉延びている; [[～(＋副)]] 〈人などが〉歩き[動き]続ける (副は方向の表現) ▶continue down the street [in the village] 通りを進み続ける[進んで村に入っていく]/continue on one's way 進み続ける。
5 〈人などが〉《状態・地位などに/…として》とどまる, 引き続きいる[ある] 《in/as》 ▶continue in school for two years 引き続いて2年間在学する。
6 [[～C]] 〈人・物が〉引き続き[相変わらず]C(状態)である (副は 図 など; remain の方が普通)。

- 自動詞の場合, 典型的な主語や後続する前置詞に注目して語義を探させるとよい。教科書本文では I が主語になっており, 〈 〉 に入れて 〈人が〉, 〈人などが〉 などと, 主語に「人」がくることが示されている語義 2, 5, 6 に注目させる。教科書本文では with が後続していることから, 二重山形かっこで <with> と記された語義 2 に導く。
- 「(やめないで)続ける」という訳語の前に, <仕事・議論などを> という二重山形かっこを使った記述があることをチェックさせ, with の後ろに来る名詞の特徴を理解させる。教科書本文では with my windmills と続いていることから, 「風車作りという作業をこれからも続けたい」という意味になることを確認させる。

(3) go ㄱㅁ 8a, p. 819, 822.

go¹ /ɡoʊ/ [→went 過去形]
((名・形) going, (形・前) gone)

SV(+) ㉑ 1a, 2 (場所へ)行く 29 過ぎる
[[完了形] 3 (...へ)行ってしまっていない
SV(+) ㉑ 1b, 4a, 5a (...しに)行く 4b ...しながら行く
[[be going to] 7a ...するつもりである 7b ...しそうである
[[go in(to)/out of A] 9a (状態)になる, から脱する
11a 進展する 14 達する 20 置かれる 21 合う
23 送られる 24 動く 26 言っている
SV ㉑ 9b 始める [[完了形] 28 (い)なくなる
SVC ㉑ 8 (状態)になる, のままである

- go のような記述量の多い語を調べる際には、見出し語のすぐ後にあるインデックスを活用させたい。教科書本文では go hungry と形容詞が後続しているので、SVC の文型になっていること確認させる。インデックスにある SVC のロゴや「(状態)になる」という意味から ㄱㅁ 8a に導く。

【特定の状態になる】8[go C] a <人・物が>(自然に・故意に)C<悪い状態>になる, 変わる, <特定の色>になる; Cのままである (Cは ㉑; ㉑-㉑)分詞形容詞を従えるのは《主に書》; ↓㉑-㉑の窓 (→ come ㉑ 12 語法) ▶be going to go crazy with so many exams 試験が多くて気が狂いそうだ/go blind [blind] 視力を失う[はげる]/The screen [house] went black abruptly. 画面[家]が急に真っ暗になった/Her diligence did not go unnoticed. 彼女の勤勉さにみんな気づいていた。

㉑-㉑の窓 go C

(1) Cに現れる主な ㉑ (a)性質 ▶go crazy ばかなことをする; 怒る; 熱狂する; 《主に米》狂う/go wild (興奮して)大騒ぎになる; <動植物が>野育ちである/go mad 《くだけて》ばかなことをする; 怒る; 《主に英》狂う/go bad <食べ物が>傷む, 腐る/go missing 行方不明になる/go bankrupt [[くだけて] broke] 破産する。
(b)色 go black を除いて《英》で好まれる ▶go black 真っ暗になる/go white 白くなる; <恐怖などで>真っ青になる <with>/go red 赤くなる; <怒りなどで>真っ赤になる <with>/go grey 灰色になる; 白髪になる/go green 緑色に[青く]なる; <嫉妬で>顔色が変わる <with>。
(2) Cに現れる主な分詞形容詞 ▶go unnoticed 気づかれないままである/go unpunished 罰を受けないままである/go unanswered <電話・玄関などが>出られないままである; <質問が>答えられないままである/go unreported 報告されないままである/go undetected 見つからないままである。
(3) 通例 old, tired, ill などには go ではなく get を用いる ▶get [×go] old 年をとる/get [×go] tired 疲れる/get [×go] ill 病気になる。
(4) 変化の過程を強調するときは進行形で用いられる ▶I feel like I'm going crazy! (感情が高ぶって)だんだん気が変になってきたようだ。

- {go C}という文型表示を確かめた上で、訳語にある「C<悪い状態>になる」という主格補語として使われる形容詞の意味合いにも注意させる。教科書本文も hungry (空腹の, 飢えた)という望ましくない状態を表す形容詞であることを確認させる。
- C に現れる主な形容詞にはどんなものがあるか、辞書の用例や㉑-㉑の窓のコラム (1)で確認させ、知識の一層の定着を図るのもよい。

(4) newspaper v 1, p. 1288.

news·pa·per¹ /nju:zpeɪpə, nju:s-/
(㉑強勢は第1音節)

㉑ (㉑ ~s /-z/) 1 ㉑ 新聞 (㉑米英にも宅配制度はあるが、街頭の newsstand など販売店で買うのが一般的; 日常的には paper がよく用いられる); [[the ~s] 新聞(全紙) ▶a local [national] newspaper 地方[全国]紙/a daily [weekly] newspaper 日刊[週刊]新聞/an online newspaper オンライン新聞/a newspaper article [ad, report, reporter] 新聞記事[広告, 報道, 記者]/a newspaper clipping 新聞の切り抜き/a newspaper deliverer [carrier] 新聞配達人/read a comic strip in the newspaper 新聞のコマ漫画を読む/The story is in (all) the newspapers その記事は全紙に出ている。

- 教科書本文が複数形であることから語義 1 の「新聞」に導く。教科書本文が in one of Africa's famous newspapers, 辞書の第 8 用例が in (all) the newspapers となっており、「新聞に[で]」という表現は前置詞の in を使うことを確認させる。教科書同ページ 16 行目の「本に登場した」という部分でも in a book と in が使われていることをチェックさせる。
- 教科書本文の続きの on American TV では前置詞が on になっていることをチェックさせてから TV (p. 2044)を引くのもよい。on TV はIに出ているが、「…に[で]」という表現は名詞によって一緒に使われる前置詞が異なることに注意させることができる。

on TV* テレビ(番組[放送])で[に] ▶What's on TV tonight? 今夜はテレビで何をやっているかな。

Crown English Communication II, p. 9.

Ingenuity Award, which is a prize given to promote the sharing of new ideas and skills with young people in developing nations. The ⁽¹⁾following year, William was invited as a guest speaker at the on-line Google Science Fair.

William has received lots of help from his supporters. They put new electric wires in his house, and ⁽²⁾even paid for him to go to an international school in the capital, Lilongwe.

(1) following α 1, p. 742.

fol·low·ing ^{/fɒl(:)əʊɪŋ|fɔl-/}
[→follow]

【形】(比較なし) ①[the ~] 次の、後に続く
(1) 時を表す ②の前で用いられるとしばしば副詞句として用いられる。(2) ③-④ next は《話》《書》の割合がほぼ1:1だが、following は約1:3となる; ←previous) ▶the following year [day, week, month] 翌年[日, 週, 月]/We woke the following afternoon. 我々は翌日の午後に目がさめた/on the following pages 以下のページに。

- α のすぐ後ろにある(比較なし)と[vの前で]という用法指示から、比較変化のない限定用法の形容詞であることを確かめさせる。
- 辞書の第1用例が教科書本文と同じであることから語義1に導く。[the ~]という用法指示から the を伴うことに注意させる。また(!)(1)時を表すvの前で用いられるとしばしば副詞句として用いられるという説明をチェックさせ、教科書本文のように前置詞がなくても「翌年に」いう意味を表せることを確認させる。

(2) even φ 1, p. 647.

【副】(比較なし) 1 …(で)さえ、…でも、…すら、…だって (1) 通例 even ではなく強調しようとする語句に強勢を置く; ↓
【語法】(2) 予期しない意外な内容であることを暗示) ▶Even a child can do it. 子供でもそれくらいできる (1 even を含む語句は文末に添えられることがある: Everybody can do it—even [×also] a child. 誰だってそれくらいできる、子供だってだ。なお、also では意外性を表せない)/You don't even know. 君にわかってたまるか/I didn't even think of going to Europe. 私はヨーロッパに行くことなど考えもしなかった/Don't even think about it! そんなことを考えるな (1 文脈から明らかな場合 Don't even. (やめろ)のように省略されることがある)/The owl can see its prey even in the dark. フクロウは暗闇でも獲物が見える/She didn't stop once, not even for a rest. 彼女は一度も途中で動きを止めなかった、休憩のためさえ (1 否定文に添える場合は not も添える)/I don't feel even a little bit of envy. うらやましいという気持ちなどこれっぽっちもない (1 ③-④) しばしば a little (bit), a few, a single, a couple, a hint, slight(est), small(est) など少ない数量を表す語句と共に/I will have to wait until 2015(,) or even 2016. 2015年まで、あるいは2016年までも待たねばならないだろう/He blames me even when he is to blame. 彼は自分に責任があるときさえ私を責める。

- 語義1の訳語から教科書本文が「彼のために学費を払いさえした」という内容になることを確認させる。!で示された説明のうち、(2)の「予期しない意外な内容であることを暗示」という部分に注意させ、「驚いたことに学費を援助する人すらいた」という意味合いがあることを理解させる。この even が「ウィリアムを取り巻く事情は意外なこと、そのため他の村人から理解されない」というセクション4の内容への橋渡しにもなっていることに気付かせる。

- even がどの位置で使われるのかについてvに詳しい記述があるのでチェックさせる。すべてを読ませなくても、(1)にある一般的原則と例文チェックだけでも効果がある。

【語法】 even の位置

(1) 《書》では通例強調しようとする語句の前に置かれる ▶Even her father says that she is wrong. (可愛がっている)彼女の父親までも彼女が間違っていると知っている/Her father even says that she is wrong. 彼女の父親は彼女が間違っていると(考えているだけでなく)口に出してまで言っている (1 副詞を修飾する場合、一般動詞ではその前、動詞ではその後に置かれる)。
(2) 《話》では強調しようとする語句に強勢が置かれるためその前以外の位置も可能。特に Mark even gave his daughter a new bike. のような文中の位置では、Mark, gave, his, daughter, new, bike のどれかに強勢を置くことで強調関係にあることを示すことが可能。ただし、文頭の even は通例直後の語句を修飾し、強勢によってほかの語句を修飾することは不可能で、Even Mark gave his daughter a new bike. の文で強調できるのは Mark のみとなる。
(3) 《くだけて》では文尾に置かれることがある ▶Many of my students are in their 20s, one or two in their 30s even. 私の学生の多くは20代だが、1人か2人は30代の人もいる。
(4) 《比較的まれ》だが強調しようとする語句の直後に挿入されることがあり、その際《話》では前後に小休止、《書》ではコンマで挟まれる ▶She gave the ring, even, to Susan. 彼女はスーザンにその指輪さえやってしまった。

-4

William's windmill has brought fame and money, as well as electricity, to his family. But progress is not only a ⁽¹⁾matter of technology; it is also a matter of education and how people think.

William's village is ⁽²⁾still poor; there are still not enough schools; the people still ⁽³⁾prefer magic and witchcraft to science.

⁽⁴⁾Some villagers are angry about the family's wealth and fame. Others think that the windmill is blowing away the clouds that bring much needed rain to the dry land. Some even think windmills are witchcraft.

But William keeps on building. Now he has plans to build windmills to bring not

Lesson 1—Section 4

(1) matter v 1a, p. 1187.

mat·ter ^{/ˈmætər/}
[語源は「建材」]

— 図 (●) ~s /-z/) 1 《ややかた》 (1) 日常英語では文脈によって代わり subject や it が用いられることが多い; → problem (図) a (2) (考慮・処理すべき) 事, 事柄, 事件, 問題 ▶ Well, that's **another** [a different] **matter**. いや, それはまた別の問題だ (2) 予想より簡単で[楽しく]ないことを暗示 / an important [a serious] **matter** 重要[重大]な問題 (3) (●) a **matter** of importance [seriousness] は重要[重大]さを強調するが (まれ) / a personal [private] **matter** 私事, 個人的な事 / legal [business] **matters** 法律的[仕事の上の]事項 / the **matter** in [at] **hand** 当面の問題 / It's **no laughing** [small, joking] **matter**. 笑いごとではない / That's a **matter** for others to decide. それはほかの人が決めることだ / a **matter** of record [法] (法廷における) 記録事項.

b [it is (just) a **matter** of A] それは(単に) A の問題だ; [it is (just) a **matter** of doing] (単に) …しさえすればよい (1) いずれも just のほかに, only, simply, merely (単に); largely, mostly (ほぼ); really (実に); partly (ひとつには) などとも可能 ▶ It's **only** a **matter** of time before [until] we have to replace our car. 車を買って替えなければならなくなるのは時間の問題だ / It's **largely** a **matter** of (personal) taste. それはほぼ(個人的な)好みの問題だ / It was a **matter** of opinion. それは意見の相違ということであった (2) 話し手が否定的意見であることを暗示 / It's not **just** a **matter** of putting computers into schools. 学校にコンピュータを入れればそれでいいんだということではない.

2 (●) [~s] (漠然とした) 事情, 事態, 状況 (things, affairs) ▶ Is there anything we can do to improve **matters**? 事態を改善するため私たちにできることがありますか / take **matters** into one's own hands (ほかの人ができないので) 自ら事態に対処する / to **complicate** **matters** (further) (さらに) 事態を複雑にしたことには (2) 文修飾として / That **didn't** help **matters**. それは事態の解決にはつながらなかった / **matters** come to a head 事態が決定的段階にさしかかる.

- 教科書本文が a **matter** of technology となっていることから X であることを確かめさせる。可算用法のうち語義 2 は用法指示 [~s]k に合わないため, 語義 1a を参照させ, 教科書のこの部分は「科学技術の問題」という意味になることを確かめさせる。
- さらに, 教科書本文の 4 行目にある **matter** は, it is also a **matter** of education となっていることから, 1b の文型表示 {it is (just) a **matter** of A} と合うことをチェックさせる。

(2) still φ 1, p. 1856.

still ^{/stɪl/}
[原義は 図 1]

— 図 (比較なし) 1 [文中で; (話) では時に文尾で] まだ, なお, 今でも, 依然として; 今後も (2) 事態が予想していた以上に続いていることを表す; → already, yet ▶ I **still** feel my heart beating fast. まだ心臓がどきどきする / There are **still** seats available on night flights. 夜の便にはまだ空席がある / I can **still** remember the scene. 今でもその光景を思い出すことができる / Are your parents **still** alive? ご両親はまだお元気ですか / Have you **still** not cleaned the car? えっ, 本当にまだ車を洗ってないの (×) Haven't you **still** cleaned ... としない; ↓ 語法 (2) / Two difficult problems are [have] **still** to be solved. 2つの難問が解決されずに残っている.

- 基本語なので意味の把握には問題ないと思われるが, 発信活動に使える情報を辞書から発見させたい。語義 1 の[文中で; {話}では時に文尾で]という説明から, 通常は文中で使用することをまず確認させる。
- 教科書本文は 5, 6, 7 行目に **still** が現れ, be 動詞の後ろで 2 回, 一般動詞の前で 1 回使用されていることをチェックさせる。辞書の第 1 用例は一般動詞の前, 第 2 用例は be 動詞の後, 第 3 用例は助動詞の後・一般動詞の前で使用されていることから, 「be 動詞や助動詞の後, 一般動詞の前」で使うという原則を発見させるよう導く。
- 下にある u(1) にはより詳しい位置についての情報があり, 適宜参照させるとよい。

語法 (1) **still** の位置 通例, 一般動詞の前, be 動詞と 図 の後に置く。ただし be 動詞, 図 に強勢が置かれるときはその前に置く ▶ You were and **still** are our hero. ≡ You were our hero and you **still** are. あなたは私たちのあこがれでしたし, 今もそうです。

(2) **still** と時制 現在形・過去形・未来形・進行形・完了形のいずれでも用いられる。ただし, 完了形は否定文と否定疑問文に限られる (↑ 第 5 例) ▶ I have already [× **still**] finished it. もうそれは終わりました。

(3) 「まだ…していない」と yet, **still** John hasn't arrived yet. と John **still** hasn't [has **still** not, × hasn't **still**] arrived. はいずれも「ジョンがまだ到着していない」ことを伝えているが, 話し手の気持ちは異なる。前者では話し手は出来事が起こることを依然として期待しているのに対し, 後者は, **still** not の語順で, すでに起こっていても当然なのにまだ起こっていない事態に対する話し手のいらだち, 驚き, 心配などの感情的反応を示している。このことは否定疑問文にも当てはまる (↑ 第 5 例). **still** が not の影響を受けない場合は, not **still** の語順が可能 ▶ He can't **still** be working! ≡ It is impossible that he is **still** working. 今ごろまで彼が働いているはずがない。

(3) prefer ㊦ 1a, p. 1485.

— ㊦ (㊦進行形にしない) 1a [prefer A (to B)] (よりかたく) A (rather than B) (Bより)Aの方を好む、選ぶ (㊦ A とBは ㊦(㊦名); ㊦(㊦名) rather は時に省略されることがある); [prefer A over B] BよりAを好む ▶ I much [far] prefer books to movies. 映画より本の方がうんと好きだ (㊦ prefer を強調するときは I very much [a lot] prefer ... や I prefer ... (very) much [a lot]. の形は避けられる; ↑ ㊦(㊦法) / I prefer driving to being a passenger. 車は乗せてもらうより運転する方が好きだ (× ... to be a passenger. としない) / Do you prefer working on TV or on radio? テレビとラジオのどちらの仕事をするのがいいですか (≡ Which do you like better, working on ...?) (㊦過去にどちらかの仕事をしていたか現在その仕事をしていることを暗示; ↓ ㊦(㊦名) / "Would you prefer meat?" "Yes, I'd prefer that." 「肉の方がいいですか」「ええ、そちらの方がいいです」 (㊦㊦) などで応答の that は省略できない).

- ・ {prefer A (to B) / {よりかたく} A (rather than B)} の文型表示前半と教科書本文の形 (prefer magic and witchcraft to science) とが合っていることから語義 1a に導く。「(B より)A を好む」という訳語から連想しがちな than ではなく、to と一緒に使うのが普通であることを確認させる。
- ・ 文型表示後半が「/{よりかたく} A (rather than B)」となっていることに注目させる。辞書ではしばしばスラッシュ(/)が「または」を意味する記号になることに触れ、より格式ばった表現では rather than を用いることを確認させる。
- ・ さらに!の解説の後半に(「ε rather η は時に省略されることがある」とあることから、時として prefer A than B の形も存在することに気付かせるのもよい。

(4) some ㊦ 2, p. 1801.

2 /səm/ ㊦(㊦名) 名詞複数形または ㊦(㊦名) 名詞の前で ㊦(㊦名) 名詞の前の(㊦) (ある)一部の、なかには…な人[物]もある (㊦) しばしば後続する some, (the) others, all などと呼応し、他者と対照される; 対比の詳細は → on the other hand ㊦(㊦名) ㊦(㊦名) Some people (㊦) like that sort of movie (㊦); some (㊦) don't (㊦). そういう映画が好きなの人も嫌いな人もいる / Some people are punctual while others don't worry about being late. 時間をきちんと守る人もいれば遅刻を気にしない人もいる (㊦ the others の場合は「残りの人[物]すべて」) / I like some music. 私はどんなものでもというわけではないが音楽は好きだ / I can't eat some types of cheese. 私は一部の種類のチーズは食べられない (㊦ 複数形で種類を暗示できる場合は types [kinds] of は省略可能: I don't eat some foods. 私は一部の種類の食べ物には食べない).

- ・ still と同様に基本語であり、生徒が自発的に辞書で確かめることの少ない語だと思われるが、発音や用法についての情報をチェックさせたい。語義 2 には用法指示として[X名詞複数形またはY名詞の前で]とあり、some がXYの名詞両方を修飾できることをまず確かめさせる。教科書本文はX名詞複数形の villagers となっていることを確認させる。
- ・ 意味をチェックさせたら(!) しばしば後続する some, (the) others, all などと呼応し、他者と対照される) という説明に注目させて、教科書本文も others と some が後続していることを確認させる。辞書の第1用例、第2用例を参照させると理解が深まる。
- ・ さらに辞書の第1用例にはイントネーションが示されているので注意させる。対比を生むための工夫であることを言い添えるのもよい。
- ・ 普通は見出し語の横に発音記号がついているが、ここでは語義 2 のすぐ後にも/səm/ と発音記号が付いていることに注意させる。some の見出し語の横には弱形発音と強形発音が示されており、意味によって発音が違うことも!を使って説明されているのでチェックさせる。スピーキング時の発音の使い分け、リスニング時の聞き分けが出来るようになるためにも必要な情報として確認させたい。

some ㊦ /㊦(㊦) s(ə)m, ㊦(㊦) səm/ (㊦(㊦) は sum と同音)

- (㊦) (1) 品詞・意味の違いに応じて強形・弱形の使い分けがある。
(2) 用法の多くは somebody, someone, something, somewhere などにも当てはまる; → any

Crown English Communication II, p. 11.

only electricity but also water to the whole village.
Then, he wants to build more windmills for other
villages across the country.

William is ⁽¹⁾part of a generation of Africans who
are not waiting for the government or aid groups
to come to their rescue. They are finding ⁽²⁾solutions
to their own problems.

(1) part v 1a, p. 1395.

part ʔpa:t/ [原義は「全体から分離された」一部分]
((形) partial, (副) partially, partly)

【要素】図 1a, d 部分 1a, b 一部 1e 部品
4 地域, 地方 5 (本・番組の)部, 編
【要員】図 1c 一員 2 役(割) 3 かかわり, 参加

— 図 (④) ~s /-ts/ 1a ④ ④ «...の» 部分 «of»; [(a) part of A] A <物・事・場所などの>部分, 一部; A <期間・過程などの>一時期, 段階; A <分野などの>面, 点; A <計画などの>一環 (1 A は単数名詞または ④ 名詞; part の前の不定冠詞については ↓ 語法 (1)) ▶ That was (a) part of my job. それは私の仕事の一部分だった/What [Which] part of [×in] the house are you most proud of? 家のどの部分が一番ご自慢ですか/a good [large] part of one's life 人生の大半/It is part of a long-term plan. それは長期計画の一環だ/John, you read this part. ジョン, 君はこの部分を読んでください/in the latter [first, early] part of the 19th century 19世紀後期[初頭]に/for the best [better] part of the day はば丸一日/This is only part of the story. 話はそれだけではない/Part of me loved her. 私は少しは彼女を愛していた/Marriage is (a) part of life. 結婚は人生の一部だ/What's the best part of being an actress? 女優であることの最も良い面はなんですか/Although disappointing, the movie was good in parts. その映画はがっかりだったが, 部分的には良いところもあった。

語法 (1) 不定冠詞 ④ を伴う場合は a を付けるが, 伴わない場合は a を省略するのが普通 ▶ That's part of the trouble. それが悩みの1つです (1 That's a part of the trouble. より自然)/It was a large part of my career. それは私の仕事の大きな部分を占めていた。
(2) 複数名詞 (a) part of は複数名詞の前では用いない ▶ some [×(a) part] of the youths 若者の一部/many [×a large part] of the students 学生の大部分。
(3) most part(s) for the most part (↓ 成句) や in most parts of the world (世界のほとんどの地域で; ↓ 4 a) のような場合を除いて, 通例 most と part(s) は同時に用いない ▶ spend most [the greater part, ×most part] of one's life abroad 人生の大半を海外で過ごす。

b ④ ④ (全部ではなく) 一部, 多少 ▶ Part of his prize money has gone to create a fellowship. 彼の賞金の一部は奨学金設立に使われた。

c ④ ④ (集団の) 一員, 構成員 ▶ They accepted me as (a) part of the team. 彼らは私をチームの一員として受け入れてくれた/John is very much a part of our family. ジョンはすっかり私たちの家族の一員になっている (1 「多くの部分を占めている」という意味ではなく「定着度・浸透度が高い」ことをいう)。

- 教科書本文では part of 以下が人(a generation of Africans)であることから, 見出し語のすぐ下にあるインデックスを参考に, 人を表す part (<要員>)の語義をチェックさせる。教科書本文は of が後続しており, 同じ of を伴う用例が2例あることから語義 1c 「(集団の)一員, 構成員」に導く。
- XYの記号が並んでいるので可算, 不可算の両用法があることに注意させる。教科書本文は a が付いていない不可算の用法になっていることをチェックさせる。辞書の第1用例では不定冠詞が(a)となっていることから, 可算扱いで a を付ける時も, 不可算扱いで a を付けない時もあるということを理解させる。

(2) solution v 1, p. 1800.

so-lu-tion /səlu:ʃ(ə)n/
[→solve]

— 図 (④) ~s /-z/ 1 ④ «問題・難局などの» 解決, 解決策 [法, 案] «to, for, of» (→be ④ 1a 表現) ▶ find [the best [a peaceful] solution to the crisis その危機的状況に対する最良の[平和的]解決策を見いだす/have a solution for the problem その問題への解法がある/There are no easy [simple] solutions. 容易な解決策はない。
2 ④ «問題・パズルなどの» 解答, 答え, 解 (answer) «to»; ④ (問題などを)解くこと ▶ the solution to the puzzle そのパズルの答え。
3 ④ [材料としては ④] 溶液 ▶ a weak [strong] salt solution 薄い[濃い]塩水/cleaning solution 洗剤溶液。

- 見出し語のすぐ横にある(→solve)という記述に注目させる。()は語源欄で, (→)は当該見出し語(ここでは名詞の solution)と派生関係にある語(ここでは動詞の solve)のところに詳しい語源情報などがあるので参照せよ, という指示であることに触れる。同じページの下部にある solve を参照させ, 語源情報だけでなく品詞・意味などもチェックさせると関連語彙への理解が深まる。

solve /sə(:)lv |sɒlv/ [語源は「ゆるめる」]
((名) solution)

— 動 (④) ~s /-z/; ~d /-d/; solving)

— ④ 1 «問題・難局などを» 解決する, 処理する, 打開する (《よりかたく》resolve) ▶ solve the environmental problem [crisis] 環境問題[危機]を解決する/The new technology will help solve the case. 新技術はその事件を解決するのに役立つだろう。
2 «謎などを» 解く, 解明する; «問題などを» 解答する ▶ solve the problem [puzzle, equation] 問題[パズル, 方程式]を解く。

- 教科書本文が solutions と複数形になっているのでXの用法(語義 1, 2, 3)をチェックさせ, その中でも語義 1 の「解決」が文脈に合っていることを確認させる。
- 共に使われる前置詞(連語)が, 二重山形 <> に入れて訳語の後に示されているのでチェックさせる。訳語の前には同じく <> で対応する日本語訳と, その前置詞に続く名詞でよく出てくるものに関する情報が示されていることも, 併せて確認させておきたい。<to, for, of>という部分から, 後続する前置詞は to, for, of が使われ, 特に太字になっている to が多いことや, 教科書本文も to が使われていることを確認させる。また, 教科書本文に使われている problems が, <問題・難局などの>という部分と合っていることを確かめさせる。